

TAKE
FREE

2017年 冬号

vol. 52

向陽台病院の健康情報誌「こもれび」

KOMOREBI

Contents

年頭所感

【そよ風 家族会】

【プログラム紹介】

思春期ユニット勉強会

【職種紹介】

精神保健福祉士の魅力、再発見

【リレーエッセイ】

南1・2病棟 看護師長 芦塚和代

【デイケア掲示板】

“はなしあう” プログラム

【こもれびぶらざ】

学会発表してきました！

年頭所感

新年あけましておめでとうございます。

昨年、大地震で熊本県内各所が大変なことになりました。
改めてお見舞い申し上げます。

私事ですが、昨年の正月は病に倒れ入院生活を余儀なくされました。まったくの「医者の不養生」で、各方面にはご迷惑をおかけいたしました。この場を借りてお詫び申し上げます。病気の後、病院はますます元気になって、前年を大きく上回る業績を上げることができたのは何よりです。職員の皆さま、お疲れ様でした。

さて、病から復活するとすこぶる健康になるもので、昨年も書きましたゴルフに関しましては、今も鋭意努力中です。何を努力中かという、年をとってもボールを飛ばせるゴルフスイングを身に着けようとしているところです。おわかりいただけますか？

僕はピロウズというバンドが好きで、聴く音楽の80%くらいはピロウズの曲です。福岡のライブハウスで500人入るかというくらいのバンドなので、人気があるとは言えませんが、人に勧めることはあっても、宣伝はしないファンのおかげか、今年でめでたく結成28年です。でもロックバンドに「円熟期」はありませんね。リーダーの山中さわおさん（「さん」付けでないと怒られるのです）は未だに自分勝手にマイペースだし、ライブになればおっさんなのに大はしゃぎのバンドです。でもやっぱり好きなんですよね。これもおわかりいただけますでしょうか？

というわけで、二つの質問を投げかけて、今年の年始とさせていただきます。

本年も何卒宜しく願い申し上げます。



医療法人横田会 向陽台病院
院長

中島 央

あけましておめでとうございます。

昨年は、地震・阿蘇山の噴火と熊本県民にとって大変な年でした。まだまだ大変な思いをなされている方もたくさんおいでになると思います。被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

予想もしない天地の叫びには、恐怖と戸惑いなど危機を肌で感じたと言うには、あまりにも劇的なことでした。

私どもも、こうして年を越すことができましたこと、この危機的な状況乗り越えられましたこと、穏やかな日常を当たり前として生活できることの大切さも、今更ながらありがたく感じております。

一昨年から自然の力に翻弄され、これでもかとさまざまなことが起こっています。一人では何もできませんが、されど、これほどまでに一人ひとりの力の大きさを実感したことはありません。職員はじめ地域や関わっていただいている方々から、たくさんご支援賜りました。大変ありがたく感謝申し上げます。

そのような中、今、医療・福祉に携わる私どもも新たな局面を迎えています。「地域医療構想」、「地域包括ケア」、など具現化に向けて動き始めることでしょう。課題もたくさんありますが、組織として10年先、20年先、次の世代まで残っていくために、皆さん一人ひとりの力をお借りしながら少し先を見据えた価値観の創造に努めて参りたいと思っています。

この新しい年がより良き年になるよう心より祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。今年も宜しくお願いします！

医療法人横田会
法人本部長

松山 陽子



そよ風家族会

11月26日のそよ風家族会では、株式会社ユアベースの谷田浩紀さんをお招きし、「成年後見制度について」の講話をしていただきました。「“後見人”って聞いたことはあるけど、どんなことをしてくれるのか知りたい」「後見人をつけるには、どんな手続きが必要なのかしら」「親亡き後も、本人を支えてくれる制度ってどんなのがあるの?」とご家族からの要望があり、今回の講話を計画しました。

社会福祉士・精神保健福祉士として活躍される傍ら、精神障がいをお持ちの方の後見人もされている谷田さん。成年後見人についてのDVDを見た後、以下のようなトピックでお話いただきました。

●後見人制度とは?

【後見人の種類と理念】

●後見人の役割

【財産管理と身上監護】

●後見人をつけることでのメリット・デメリット

●後見人になれる人

【一般後見人と専門職後見人】

成年後見人とは、『判断能力が低下した方が不利益をこうむらないよう家庭裁判所が選任した、その方に代わって契約などの判断やお金の管理などを援助してくれる人』ということでした。詐欺などに合った際に契約を取り消すことができたり、施設入所などの介護保険の契約など、後見人がした行為は本人がした行為として扱われるそうです。

14名のご家族の他に、制度に関心があるスタッフも多数参加いたしました。フロアからの質問も活発で、成年後見制度について理解を深めることができました。

“ご本人らしく、幸せに安心して暮らしていけるように、という視点を大事にしています”というお話が印象に残っています。ご家族とともに学ぶ、貴重な時間となりました。

次回の予定

日時：2017年2月25日(土) 10時～12時

会場：リュミエール活動室

詳しくは☎096-272-7211までご連絡ください。
お気軽にご参加ください。お待ちしております。

「思春期ユニット勉強会」

● デイケアセンター 臨床心理士 二宮 宗三

今回は月に1度、南3病棟で行っている『思春期ユニット勉強会』の特別版です。特別ゲストとしてデイケア利用中の2人に来てもらい、『入院生活を語る』というタイトルで入院までの経過、何が治療的だったのかについて話してもらいました。実際に体験した人から話を聞くことで、自分たちの関わりについて振り返ることができ、逆に力をもらったような気がします。勉強会で話した人、参加した人の声をお聞きください。

イラスト／カエル



◆話をしてみても①

Aさん (10代女性)

人に話すことによって、自分の病気を見つめ直すことができました。ADHDという病気は自分で努力するとできるようになる部分もあると思います。いろいろな工夫をしていくことも自分の病気と向き合っていくことなんだと改めて思いました。入院中は守られてる環境だったので、自分でしたくないことや嫌なことは人に任せたり、しなかったりしていたけれど、外に出れば自分でしなくてはいけないことも多く、時には人に頼ってと上手くやっていくことが大事です。勉強会では看護師さんから「今は変わったね」と言われることがとても嬉しく、いろんなことにチャレンジしないと!という気持ちになりました。自分のためにもとてもいい勉強会だったと思います。

◆話をしてみても②

Bさん (10代男性)

発表のためにこれまで辿ってきた経緯を思い返し、懐かしくなりました。入院中は自分のことも置かれている状況も分からず、病状にも目を向けたくなかったです。退院の時もグループホームやデイケアという未知の場所に対する不安だらけでした。でも、さまざまな人がいる環境で、病気との向き合い方やコミュニケーションを学ぶことができました。一番大きな成長は、溜め込まずに人に相談するようになったことです。今回、振り返ることで自分を見つめ直し、成長を実感できて良かったです。話している最中は余裕がなかったのですが、終わってから周りを見渡すと、『ああ、いろいろな人に助けられてここまで来れたんだな』と、『この環境で多くのことを経験して、学べてよかったな』と感じました。ここからもっともっと頑張っていきたいです。

◆勉強会に参加して

Aさんの担当看護師
成吉 幸子

南3病棟で1、2を争う暴れん坊將軍だったAさんが退院して約1年。勉強会でイキイキと話すAさんはあの頃とは別人のようで、デイケアに通いながら目標に向かってアルバイトまでもこなす、まさに“リア充女子”でした。その姿を見て、「目標は人を変える」と学び、また、退院後も心温かい人や本人に合った環境の中で生活を送ることが、心身の健康維持の土台となっていくのだと感じる貴重な時間となりました。

精神保健福祉士の魅力、再発見

●地域連携部 精神保健福祉士 岩井 佑美

向陽台病院には、生活上に困り感を抱えたさまざまな患者さんたちが治療に来ます。病気によって仕事を辞めざるを得なくなったり、家庭生活が上手くいかなかったり。また、最近では子どもの受診も増え、発達障害による学校での上手くいかなさや、不登校、お母さんやお父さんとの葛藤など、それこそ、さまざまな課題を抱えている人たちがたくさんいるなあと感じています。そこで、われら精神保健福祉士の出番です。精神保健福祉士は、精神保健福祉領域のソーシャルワーカーの国家資格です。ソーシャルワーカーとは、社会生活上の困難さを抱えた患者さんたちに対して、一緒に問題解決を行っていく福祉の専門職です。

精神保健福祉士は、患者さんが困っている具体的な問題について、どのように解決していくのか一緒に手立てを考えていきます。その患者さんの必要性に応じて、例えば、ひとりで在宅生活するのに、家事が苦手であれば、それをサポートするためにホームヘルプサービスの手続きを行ったり、



子どもであれば、学校と連絡を取り合い、安心して学校生活が送れる方法を考えたりします。

ここでは患者さんたちと「一緒に」行うことがミソ。あくまで主役は患者さんで、精神保健福祉士は伴走者です。一見厳しい言い方かもしれませんが、精神保健福祉士は患者さんの代わりに問題を解決することはできません。問題を抱えている主体は患者さんです。そのため、精神保健福祉士は、患者さんたちが自分で問題を解決できるようなかわりが必要だと思っています。

自分で問題を解決できる力を身につける方法のひとつは、だれにでも当てはまることですが、その人の持っているもともとのお力を信じて、生かしていくことです。たとえば、好きなことや趣味などは自分を助けてくれますし、「どうしていいのかわからない」場合でも、「今の状況をより良くしようと動き出している」ととらえることもできます。そのように、とらえ方、考え方を少しでも変えるだけで、問題への取り組み方が変わってきます。精神保健福祉士は、それらのお力を生かして、かかわっていきます。私は、患者さんとかかわりながら、自分



の生き方と向き合うことがしばしば。とても奥の深い仕事だなあと感じています。

今まで、精神保健福祉士の実践は、主に行政や精神科病院で行われてきました。しかし、最近では学校教育現場や、司法などに広がりつつあります。それだけ、生活上の困難さを抱える人たちが増えてきたのだと感じます。もしかしたら、その困難さが社会的にクローズアップされるようになったかもしれません。精神保健福祉士の実践の場の広がりや、より多くの必要とされる人々への支援の機会が増えてきたと言えます。

困難さを抱えていようと抱えていないと、「よりよく生きる」という視点は誰にでも大事なことです。精神保健福祉士が、少しでもそのお手伝いができればうれしく思います。

今年の意気込み

今年一年の意気込み…。仕事もプライベートも充実した一年にしたい、と毎年思っているが実行できない。具体的に計画を立てれば実行できるかもしれないと思い、今年やりたいことを書き出してみた。

旅行、ジム通い、マラソン…などなど、言い出すときりがない。

まずは、プライベートから。ずっとやりたかったこと、まず1つ目は、香川県まで車で行き、うどん屋さん巡りをすること(笑)。2年ほど前、「車で香川県に行って、うどん屋さん巡りたい」という息子の一言で、車の購入を決意。やっと車を購入し、いざ香川県へ!と思っていたが、息子の野球の休みがなく未だに行けていない。息子も思春期に差しかかり、私と出かけなくなる日もそう遠くはないだろう。なので今年こそは、必ずうどん県に行くぞー。2つ目に、ジムに通うこと。食べることが大好きな私は、年々体重が増加傾向。20代の頃のように体重は減らなくなっている。楽しく運動をして変わらない体型をキープしたいと常々思っているが、意志が弱く自分ひとりではなかなか運動しない。ジムに入会したら通うのではないかと…という甘い考えを持っている。

仕事では、震災後から長期に渡り、研修に行かせていただいた。研

修は期待以上に得るものが多く、充実した日々を送ることができた。学ぶことが多く「久しぶりにこんなに参考書を開いたなあ」と自分でも感心するほど。しかし、ただ研修を受けてきただけでは何の役にも立たない。そこで今年の仕事の意気込みは、研修で得たことを生かせるようにすること!! 病院内外に関係なく、何か活動ができたらいいなと思っている。そのためにも、残された研修をクリアしなければいけない。まずは、無事に研修を終えることが今の目標である。

意気込みというより、今年やりたいことになってしまったが、新年の始まりにやりたいことを書き出してみるのもいいな〜と感じた。

楽しみがないと仕事への意欲はわかない。仕事を精一杯頑張るためには、プライベートを充実させることが大切。仕事もプライベートも充実させるぞー! オー!!

みなさんにとって、良い一年になりますように。

▶次回は、地域連携科 精神保健福祉士 関 久美子 主任へ
バトンタッチ

デイケア掲示板

●作業療法科 作業療法士 岩永 知寛

“はなしあう”プログラム

デイケアでは、対人関係(コミュニケーション)、1人暮らし、社会人準備など目的に合わせて“はなしあう”ことをメインにしたプログラムをいくつか行っているのですが、今回はその中の1つ、心理教育(当事者研究)について紹介します。

症状や生活の中での苦悩や感じることにについて“はなしあう”中で、当事者にとっては「そうそう!」「分かる!」と共感する瞬間がしばしばあるようです。話が深まると「その考えがあったか」と新たな発見に繋がり、何かを掴んだような表情を目にすることも少なくありません。

真剣に話し合っていると思いきや、時にはユーモアに溢れた捉え方で笑いが起きることもあります。月に1回行っている当事者研究では、『悩みゴミの片付け方』『幻聴のあやつり方』『リストカットのカットちゃん』などユニークな研究に取り組んでいます。リュミエールの玄関に当事者研究新聞を掲示しているので、興味のある方はどうぞ読んでみてくださいね。



利用者の声

◆自分の病気についてくわしく学べたり、薬の種類や効果など、とても勉強になります。デイケアプログラムの中で、一番好きなプログラムです。(30代/男性)

◆べてるの家で行われている当事者研究がまさか向陽台病院でやってくれるとは思ってもみなかった。症状をどう捉え、どう対処するかなどを話し合うことができありがたい。(40歳代/男性)

★次回はスタッフとメンバーの対談を予定しています

学会発表してきました！

職種の専門性の向上を目指し、毎年さまざまな学会に参加しています。

◆人間性心理学会 第35回大会 in 九州産業大学(福岡) 8月27日～29日 デイケアセンター 臨床心理士 中野 愛

『人間性心理学―世代を超えた対話―』というテーマでシンポジストとして登壇しました。異なるフィールド、世代のシンポジストが語りあう企画で、私はデイケアという日常に近い場所で心理職として働く難しさと魅力について話しました。メンバーの成長のお手伝いができるよう、これからも頑張りたいと気持ちを新たにすることができました。

◆日本デイケア学会 第21回年次大会 金沢大会 10月13、14日 デイケアセンター 作業療法士 倉敷 ひとみ

デイケアセンターから、10～20代の利用者を対象とした『社会人準備プログラム』の取り組みを報告しました。楽しく和気あいあいとした雰囲気で行っていることが伝えられたのではないかと思います。当院以外の思春期デイケアの実践も知ることができ、刺激を受けた2日間でした。今回学んだことを活かして、よりよいデイケアになるよう努めたいと思います。



◆第57回 日本児童青年精神医学会 10月27日～29日 臨床心理科 臨床心理士 二宮 宗三

岡山であった第57回日本児童青年精神医学会に参加してきました。岡山といえば「児島デニム」、「ままかり（ご飯を借りに行くくらい美味しいという意味です）」などが有名ですが、一番はやはり「桃太郎」です。岡山駅を降りると桃太郎像が「いざ鬼ヶ島へ」と言わんばかりの表情で迎えてくれますが、仲間は犬、サル、キジだけでなく、ハトも従えています。学会では、『カタカナが苦手な子に対しての支援』について発表してきました。他の病院の発表なども聞くことで、いろいろな刺激をもらい、改めて個別性を大事にしなければいけないことを感じることができました。忘れていましたが、岡山は鯖も有名です（魚へんに春と書きますが、秋も寒鯖といって旬のようです）。僕も3日連続食べてきました。皆さんも行かれた時には、ぜひ食べてみてください。

その他、日本内科学会、精神神経学会、日本小児精神神経学会、熊本精神神経学会、日本思春期青年期精神学会、日本ブリーフサイコセラピー学会、日本自閉症スペクトラム学会、日本神経心理学会、日本児童青年神経学会などにも参加しています。

このコーナーでは、向陽台病院の最新ニュースやイベントの内容をお届けします。

詳しくはホームページでも掲載しています。

www.koyodai.or.jp

動向を探る

向陽台病院を利用されている患者さんの2016年9月～11月の動向を掲載しています。

集 計 月	2016年 9月	2016年 10月	2016年 11月
外来延数	2,746	2,642	2,870
新 患 者	57	57	68
1か月ごとの入院患者数			
入 院	39	30	45
退 院	35	36	34

編集後記

新年あけましておめでとうございます。

昨年は自然災害が次々にやってきて、ほんとに疲れました。地震は今でもちょっと気になります。

ところで、この編集後記。書くのに意外と時間を使います。たった数行なのに、です。思わずgoogleで検索してしまいました。それによると「苦労話をかけ」「裏話もいい」「親近感がわくように多少は砕けた感じで」とあったので、せっせと盛り込んでみました。

今年も「こもれび」をよろしく願います。（濱本 晋也）

「こもれび」に関するご意見・感想をお待ちしています！

私たちは「こもれび」をとおして、皆さまに役立つ情報をお届けできればと作成しています。皆さまの率直なご意見をお聞かせください。（向陽台病院 広報委員会）

診察のごあんない (2017年1月現在)

月	火	水	木	金
中島	田仲	村上	山脇	田仲
田仲	岩本	末永	牧	井手
	笠原			

※担当医は予告なく変更になる場合がございます

祝日も平常どおり診察しています

- 診療科目：精神科・心療内科・児童精神科
- 病床数：198床
- 外来診療時間：月～金曜日 9時40分～16時
- 休診日：土・日曜日

初めて受診される方へ

当院は予約制です。初めての方は、地域連携室へお電話ください。☎096-272-5250

電話の際、①お名前 ②相談内容 ③連絡先などをおうかがいし、予定の日時を決めます。

当日の所要時間は問診や診察、検査などを含め、2時間程度とお考えください。

病院理念

私たち向陽台病院は、地域医療のなかで安全で効果的な精神科医療を提供するために、職員の知恵を結集し、迅速かつ包容力のある対応ができる病院を目指します。

患者の権利

1. 良質な医療サービスを平等に受ける権利があります。
 2. 人格・意思が尊重され、人間としての尊厳を守られる権利があります。
 3. 自分自身の診療に関する情報の提供を受ける権利があります。
 4. 医療従事者から説明を受けた後に、提案された診療計画などを自分で決定する権利があります。
- また、他の医療機関の医師の意見（セカンド・オピニオン）を求める権利があります。
5. プライバシーを尊重される権利があります。

交通アクセス

🚌【産交バス】向坂バス停から徒歩3分 投刀塚バス停から徒歩3分

🚗【車】植木ICから10分

🚗【JR】植木駅下車 → タクシーで6分



医療法人横田会 向陽台病院

熊本県熊本市北区植木町鑑田1025 tel. 096-272-7211



当院は「情報公開レベル優良施設」として、はとあつと評価（認定3/Stage-1）の第三者評価認定を受けています。



当院は、2005年から財団法人日本医療機能評価機構の認定を受け、2015年1月に3rdG:ver1.0で再認定されました。



上のQRコードをQRコード対応携帯で読み込むと向陽台病院携帯サイトにアクセスできます。